



かくれた金貨

よし子

むかし西洋のある田舎に一人の御婆さんが住んで居ました此人はお爺さんも死に子供も一人もありませんので誠に淋しく其上御金もさう澤山はありませんでしたので人を雇う事も出来ずそれは心細い月日を送つて居りました。或日の事御婆さんはいつもの様に獨りで御仕事して居りますと珍らしくもお客様がお出でになりました、お婆さんは喜んで玄關へ出て見ますとそれは四五年前に隣りに住つて居たうちの娘さんでしたのです御婆さんは嬉しそうニコくして

「マアよく尋ねて来て下さいましたねさあ〜ど
うかこちらへいらして下さいますか、急にうちが
賑やかになりてうれし〜と」

獨り言も半分まで急いで自分のお座敷へ御案内
 しましたそして御仕事もいそいで片付け御菓子や
 コーヒーを持つて来て又ニコニコと

「よく来て下さいましたね淋しくて仕方ない處
 でした

と繰返し言つて居ます娘さんも嬉しうに

「御婆さん久しく御目にかゝりませんでした。

御獨りで御淋しいでせうと思つて御尋ね致しま
 した此からは時々御尋ねしている御話しま
 せう」

といつて御婆さんの心を慰めましたそして其日は
 面白い御話をして夕方歸つて行きましたがそれか
 らは時々来て御婆さんの御手傳したり公園へ連れ
 て行つてあげたりして大層頼りない此御婆さんを
 大事にして上げて居ましたそれで御婆さんも大變
 り、ーさんを可愛がり人形の洋服など縫つてやつ
 て居ました其内にもクリスマスの日が近くなり
 ましたので何か、ーさんの喜びさうの物をあげ

たいといろ／＼考へましたか御金がないので何も
 い、物を買う事も出来ませんのですから或日の
 事物置へいつて方々さがして居りますとカバンの
 底から小さな綺麗な箱が出て来ました。

その中に自分で金の切で針箱を縫ひ赤い絹糸と小
 さな鍍金を入れ指貫と針を買つて来てそれも入れ
 可愛いらしい針箱を一つこしらへました。

其内にいよ／＼クリスマスが来ましたたけふはさつ
 と早くから、ーさんが来るだらうと御婆さんは
 學校から歸つて来る子を持つ親のやうに玄關へ行
 つたり来たりし又門へ出て見たり窓から首を出し
 たりして待つて居りますとやがて向ふの方から海
 老茶の洋服を着同じ色の帽子を冠つて急ぎ足で御
 婆さんの御宅の方を見ながら、ーさんが来まし
 た。

馳け出して門迄迎いにいつた御婆さんと手を引か
 れておうちへ入りましたり、ーさんはお婆さんに
 あた／＼かな毛糸で手袋をこしらへて持つて来て上げ

ましたそして

「御婆さん之から寒くなりませすから之をはめていらつしやい又靴下もあんで来て上げませう」

と云ひますので御婆さんは大喜び

「これはくゝい、物をあんで下さつて有難い事」

と大喜びですそうして

「リ、ーさん之はあたしがこしらいた針道具で

すよ」

と云つて針箱を持って来て上げました。

リ、ーさんはいかにもうれしうに戴いて早速中の物を拜見しました。

先つ鉄を出し糸をなかめ針指を出して猶見ますと

まだ何か一枚の綺麗な切かありますリ、ーはそ

つと摘み出して

「お婆さん之は何てすの」

と云つてお婆さんに見せましたそこでお婆さんは

リ、ーと二人其切を見ますとストーブの繪か書て

あり其そばに

「よく見ると分る」

と書いてあります何か何やら一向わけが分らないので二人は不思議に思ひいろく考へて居ました

か急にリ、ーは

「お婆さん之は御隣り座敷のストーブに能く似

て居ますよいつてくらべて見ませう

と云ひますからお婆さんも

「そうねそう云へば此床飾りが市松になつて居

る處などそつくりの様だからどれ見ませう

そこで二人は隣座敷に行きくらべて見ますと一寸

の違ひもなくそつくりですリ、ーは暫く考へて居

ました急に思ひ出した様に床飾りの市松の一つづ

ゝを指てつゝついで見て居ます二つ三つとだん々

々行ぎますと中に一つ動くのがありますので一

度強くつきましたらはづれて下に落ちこなくに

かけてしまいました

リ、ーはびつくりして

「お婆さんつひあんなり強く押したもので落し

てこわしましたよ、ご免なさいな、ねどーか」としきりにあやまります

お婆さんは可愛いリ、ーがつひした事故少しも怒るところか反つてやさしく

「つひですものちつとも心配する事はありませんわとで作らせませうそれよりリ、ーさんや其中に何かはいつて居るやうに見えるかさがして御覽なさいな

と云はれてリ、ーはお婆さんの儼しいのを嬉しく「はい何かあるやうですわとこはー手を入れて見ますと何か袋が出て来ました」

あんまりそーつと持ち出したので重いー袋は床の上に落ち口が破れて中からピカピカする金貨がばらばらと出ました

お婆さん驚くまい事か腰が抜けたやうに後の椅子にたはれ掛り

「マアー」

と目を丸くして見て居る許りです

リ、ーはそれを一生懸命獨りで拾いあつめお婆さんの膝へのせてあげ又ストープの飾をよく見ますとどれもーも皆戸棚になつて居るやうですから片はじから押してははづしして行きましたら皆戸があき中から一つ宛の袋が出ましたそれをびつくりして見て居る

お婆さんの前へ持て行き一つーわけましたらどれからもー同じやふに金貨が出ますので見る々々中に机の上山盛りの金貨になりましたお婆さんも漸く夢がさめた様に喜び

「り、ーさんやまあ何と嬉しいちやありませんかさあどこか、早くしまませうあなたの巾着へも入れてのげやう」と

云つてリ、ーの巾着にも一ぱい分けてやり近處の貧しい可愛そなう子供にも一つ二つ分けて恵みおとは大事に金箱にしまひました。

リ、ーも大層喜び

「お婆さん之はさつとお爺さんが溜めて御置に

なつたに違ひありません之からお婆さんも人でも雇つて賑やかに暮らしていらつしやれますね、私こんな嬉しい安心した事はありませんよ、ほんとーによござんしたね

お婆さん

と人事のやうでなく喜びました

お婆さんは御金持ちになつたのも嬉しいのですけれどこれよりかり、一の親切を優しい心が何よりうれしく

「之もリ、一さんが尋ねて来て下さつたから此箱も見出したのであなたは此御金よりも私に大事な人なのですよ」

と之もいらにも嬉しそうちに兩人ともニコ／＼して其一日をたのしく過しました

それからお婆さんはリ、一さんのうちに行き其御話をくはしくしてリ、一さんを自分の子供にはしいと頼みましたリ、一もお婆さんが獨りて心細いのを氣の毒に思ひ喜んで子供になりましたのでお

お婆さんはリ、一を都の學校に入れそれから安心してたのしく暮らしましたとさ。

豆と石

乙 女

「豆わーい、時候になつて来た、是から僕の大きくなる時節だドレンロ／＼支度をしようかな」と大きな石のそばの土の上に落ちて居た豌豆が獨り言を云ふと之を聞き付けた大石は怪げんな顔をして

「豆、大きくなる？ 大きくなるつて何なことだへ」と聞きますと

「豆、大きくなるつて、知らないの？ それはね、君と僕と君の方が大きいだらう、そこで僕が今段々大きくなつて君よりももつと勢の高いものになると云ふことなのさ。」

「石、なに僕よりも大きくなる？、生意氣なこと